

大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) の設立と今後の活動について

守屋文葉
(国立情報学研究所 学術基盤推進部 図書館連携協力室 / JUSTICE事務局)

電子ジャーナルと大学図書館

背景

- 海外の学術雑誌の価格高騰: シリアルズ・クライシス (1980年代~)
- 電子ジャーナル化の進展 (1990年代後半~)

コンソーシアムによる共同購入

- 購買力と交渉力の強化
- Value for Money (支払額当たりの利用可能コンテンツ) の向上

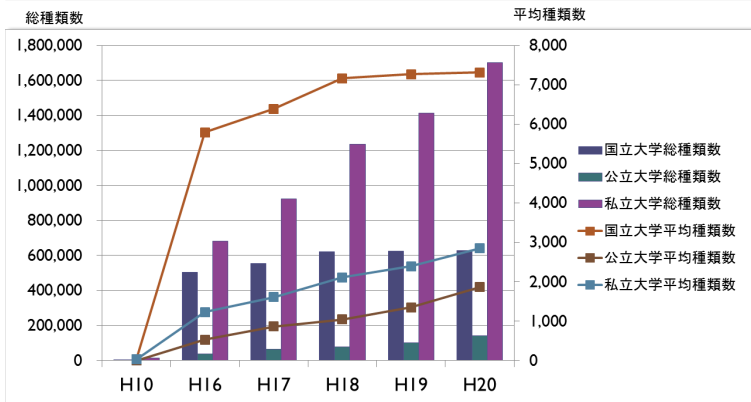
大学図書館コンソーシアム (平成23 (2011) 年3月まで)

	国立大学図書館 コンソーシアム	公私立大学図書館コンソーシアム (PULC)
設立	平成12 (2000) 年: 電子ジャーナル・タスクフォース設立 (コンソーシアム活動開始) 平成21 (2009) 年: コンソーシアム関連組織を統合した学術情報流通改革検討特別委員会を設置	平成15 (2003) 年: 私立大学図書館コンソーシアム形成 平成18 (2006) 年: 公私立大学図書館コンソーシアムに改組
運営・交渉組織	学術情報流通改革検討特別委員会 館長6名、部課長8名+協力員 (図書館の実務担当者)	16の幹事大学、全体会合
参加館	94 (国立大学図書館協会会員館)	392 (公立57、私立333、その他2)
対象出版社	34	35

コンソーシアムの成果

電子ジャーナルの総利用可能種類数と平均利用可能種類数

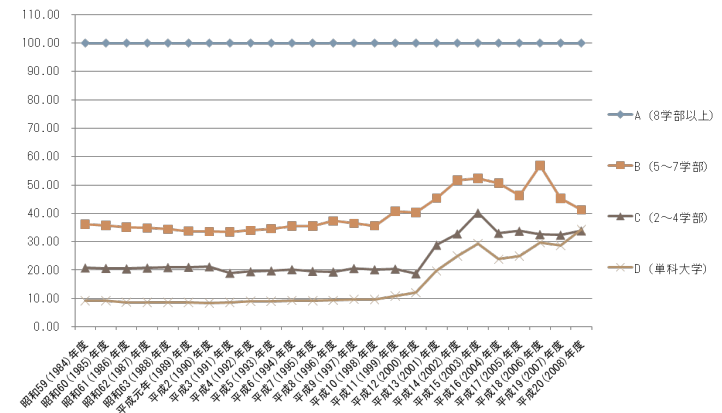
平成16年度(123万種類)→平成20年度(247万種類) 約2倍に増加



(文部科学省「大学図書館実態調査」及び「学術情報基盤実態調査」より)

情報格差の是正(国立大学の場合)

Aの平均受入数(洋雑誌+EJ)を100とした場合の格差の推移



* 文部科学省 大学図書館実態調査/学術情報基盤実態調査による

学術情報基盤としての電子ジャーナル

○学術図書館研究委員会(SCREAL)による平成19(2007)年調査

- ・国内25の大学等の機関を対象
- ・2,890の有効回答

<http://www.screal.org/apache2-default/>

●電子ジャーナルなしではわが国の学術研究は成り立たない

- ▶ 化学、生物学、医歯薬学の分野では、半数以上が電子ジャーナルを「ほぼ毎日」使っている
- ▶ 人文社会系でも電子ジャーナルの利用者は平成13(2001)年調査の4倍以上
- ▶ 利用は年齢による差がほとんどない

これまでのコンソーシアムの問題点

1. 組織の問題
 - ▶ コンソーシアムの活動組織が弱い(図書館長及び図書館員のボランティア的活動に依存)
 - ▶ コンソーシアム間の連携が弱い
2. 契約モデルの問題
 - ▶ ビッグディール(包括的パッケージ契約)の維持が困難(毎年の値上げに対応できない)
 - ▶ ビッグディールから離脱した場合、アクセス可能タイトル数が激減
3. 交渉の問題
 - ▶ 価格交渉の限界(スケールメリットの限界)

審議会等からの提言

- ▶ 国立大学協会 経営支援委員会 電子ジャーナルWG(平成21年6月)
 - ▶ 例えば、文部科学省の中に電子ジャーナル(EJ)高騰対策委員会を創設し、EJ出版社と交渉契約する。
- ▶ 科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会(平成21年7月)
 - ▶ 交渉力強化の観点から、国公私立大学全体を包括する交渉のための組織のあり方について検討が必要。
- ▶ 国家の成長戦略として大学の研究・人材育成基盤の抜本的強化を一新成長戦略、科学技術基本計画の策定等に向けた緊急政策提言一(旧七帝大+早稲田、慶応の学長)(平成22年3月)
 - ▶ 電子ジャーナルの安定的確保に向けて、JCOLCの実体化、国立と公私立大学コンソーシアムの連携、大学間の連携という枠組みの中で図書館間の連携を強化
- ▶ 日本学術会議 科学者委員会 学術誌問題検討分科会(平成22年8月)
 - ▶ 学術情報発信の諸問題に対応する横断的統合組織、包括的学術コンソーシアムを設置し、電子ジャーナルコンソーシアム間の連携を触媒し、EJコンソーシアムと連携した商業出版社との交渉を支援
- ▶ 「科学技術に関する基本政策について」に対する答申(平成22年12月)
 - ▶ 国は、大学や公的研究機関が、電子ジャーナルの効率的、安定的な購読が可能となるよう、有効な方策を検討することを期待する。また、国はこれらの取組を支援する。

▶ 8

私立大学図書館協会東地区部会2011年度研修分科会(第2回)

2011/7

コンソーシアム連携に向けて

- ▶ 平成22年7月14日
 - ▶ 国公私立大学図書館長と国立情報学研究所長との懇談会
- ▶ 平成22年9月21日
 - ▶ 国公私立大学図書館協力委員会としてコンソーシアム連携を承認
- ▶ 平成22年10月13日
 - ▶ 国立情報学研究所と国公私立大学図書館協力委員会との間で連携・協力の推進に関する協定書を締結

▶ 9

私立大学図書館協会東地区部会2011年度研修分科会(第2回)

2011/7

連携・協力の推進に関する協定書

- ▶ 目的
 - ▶ 学術情報の急速なデジタル化の進展の中で、我が国の大学等の教育研究機関において不可欠な学術情報の確保と発信の一層の強化を図る
- ▶ 連携・協力の推進
 - ▶ **バックファイルを含む電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保証**
 - ▶ 機関リポジトリを通じた大学の知の発信システム構築
 - ▶ 電子情報資源を含む総合目録データベースの強化
 - ▶ 学術情報の確保と発信に関する人材の交流・育成と国際連携

▶ 10

私立大学図書館協会東地区部会2011年度研修分科会(第2回)

2011/7

当面の基本方針

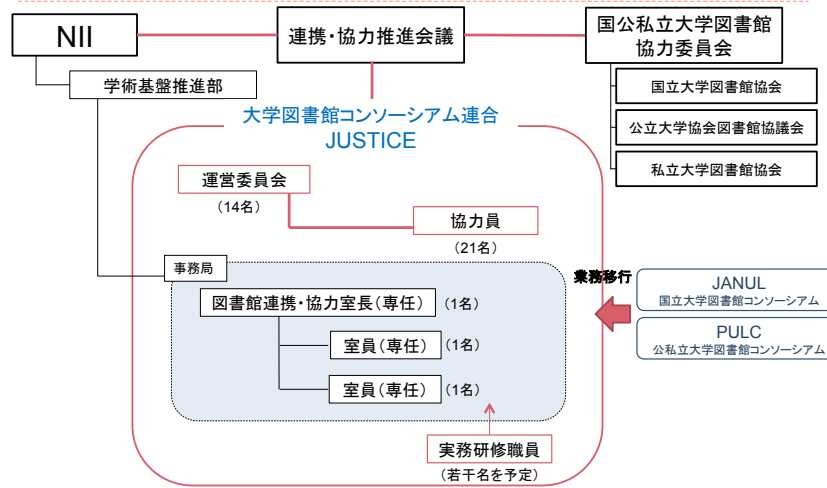
1. **新コンソーシアムの発足**
 - ▶ 国立大学図書館協会コンソーシアムと公私立大学図書館コンソーシアム(PULC)を統合し、新コンソーシアムを発足
 - ▶ 名称は「大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE: Japan Alliance of University Library Consortia for E-Resources)とし、発足は平成23年4月1日
2. **組織と運営**
 - ▶ 「運営委員会」と「事務局」により運営
 - ▶ 運営委員会は、基本事項(出版社等との交渉方針、契約モデル、整備すべき電子コンテンツ、財源等)を策定
 - ▶ 事務局は、出版社等との交渉準備、参加機関への情報提供、学術情報流通に関する情報収集、参加機関の契約状況等の調査、関係団体との連絡・調整等を担当
3. **業務移行**
 - ▶ 国立大学図書館協会コンソーシアムとPULCの業務は平成23年度中に移行
 - ▶ 平成23年度中にあらためて新コンソーシアムへの参加の意向を確認
4. **安定的・持続的な運営の検討**
 - ▶ 組織、財源、人的資源の確保のためのロードマップ作成

▶ 11

私立大学図書館協会東地区部会2011年度研修分科会(第2回)

2011/7

JUSTICEの組織体制図



世界有数の大規模コンソーシアムの誕生

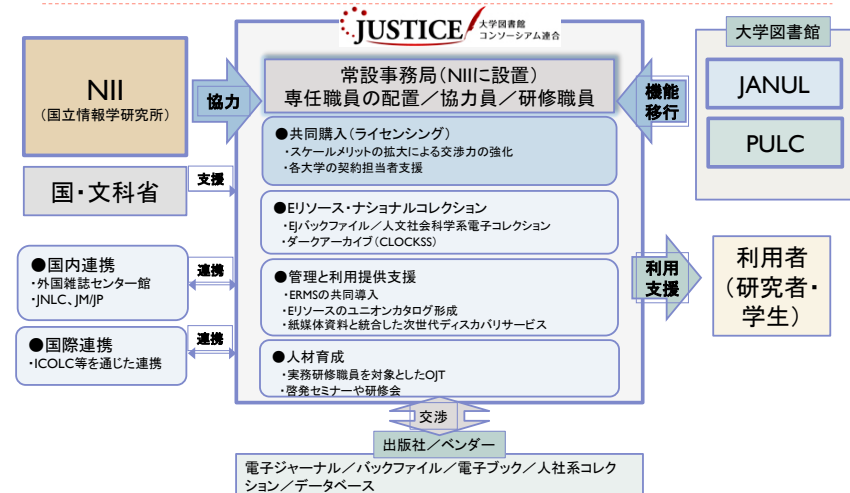
コンソーシアム	国	参加機関数	概要
Lyrasis	アメリカ	約2,000	米国の代表的な3つの地域コンソーシアムSOLINETとPALINET及びNELINETが合併し2009年に設立。会員制非営利団体。電子ジャーナルの契約交渉の他に、総合目録の構築や図書館間相互貸借、研修事業等も行う。
JISC	イギリス	約200	英国高等教育助成会議(Higher Education Funding Councils: HEFCs)によって1993年に設立された非営利団体。その子会社であるJISC Collections社が電子ジャーナルを始めとしたデジタル資料の国家的な構築・整備を行う。
Couperin	フランス	約200	1999年に4つの大学図書館により創設され、全国レベルに発展した非営利団体。参加機関のボランティアによる運営。電子ジャーナルのライセンス契約の他、デジタル資料のコレクション整備に関する国家的なプロジェクトへの協力活動も行う。
JUSTICE	日本	486	国立: 94機関。 公立: 57機関。 私立: 333機関。 その他: 2機関。

JUSTICEの使命と業務

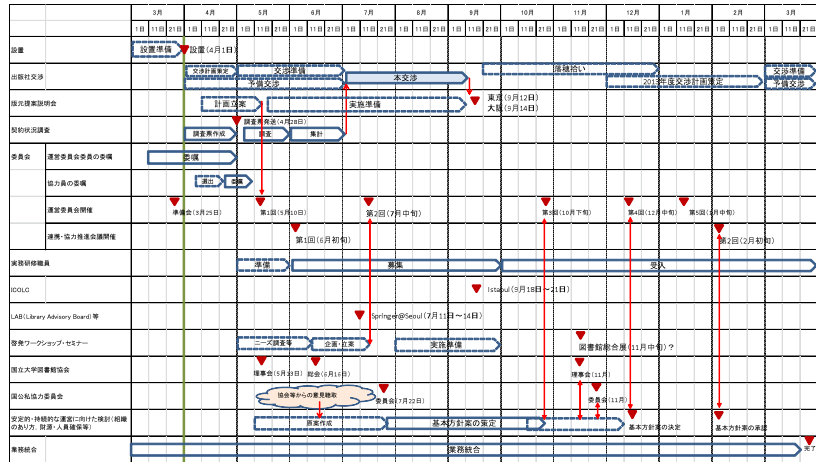
- ▶ 使命(ミッション)
 - ▶ 電子リソースに係る契約、管理、提供、保存、人材育成等を通じて、わが国の学術情報基盤の整備に貢献する
- ▶ 業務(タスク)
 - ▶ 電子リソースの共同購入(出版社交渉)
 - ▶ ナショナルコレクションの拡充
 - ▶ 電子リソースの管理と提供
 - ▶ 長期保存とアクセス保証
 - ▶ 人材育成

(第1回運営委員会(平成23年5月10日)承認)

JUSTICEの業務(概念図)



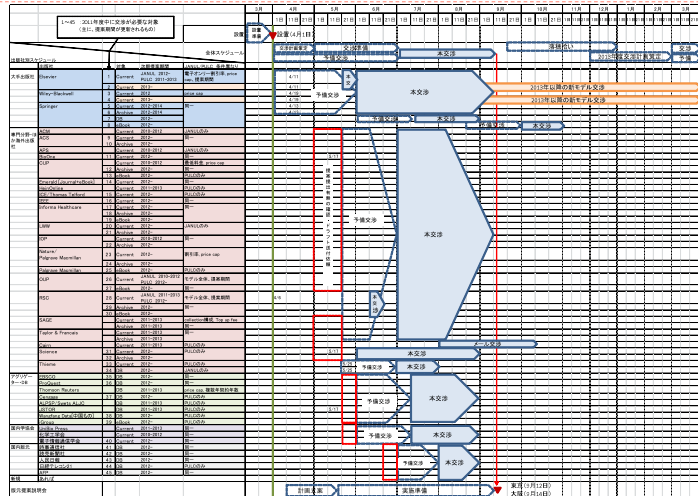
今年度の活動スケジュール



出版社交渉について

- ▶ JANULとPULCの提案の統合・整理
 - ▶ 35+αの出版社、45+αの製品が対象
- ▶ グループ分け(優先順位)
 - ▶ 大手海外出版社
 - ▶ 専門分野系(学会)、その他海外出版社系
 - ▶ アグリゲータ・データベース系(人社系コレクション含む)
 - ▶ 国内学協会誌
 - ▶ その他日本の版元
 - ▶ 新規提案版元
- ▶ 交渉スケジュール
 - ▶ 2012(平成24)年度向けの交渉は、9月中旬の版元提案説明会が期限
 - ▶ それまでに延べ100回以上の交渉が必要(現在、約35回の交渉を消化)

出版社交渉スケジュール



出版社交渉の共通課題

1. 新たな交渉カード
 - ▶ スケールメリット(500館を背景とした交渉)
 - ▶ One Invoice, One Payment
 - ▶ データ(契約データと利用データの集約)
2. 新たな契約モデルへの対応
 - ▶ データベースモデル
 - ▶ 過去の購読実績ではなく、大学をいくつかのBandに分けて価格設定
 - ▶ Bandの設定方法をどうするか?
 - 予算規模、利用実績、構成員数、特性(研究系/教育系)...
 - ▶ バックファイルの累積的購入とカレント契約額の低減化モデル
3. タイムなコンソーシアムの可能性
 - ▶ JUSTICEの傘の下にいくつかのサブコンソーシアムを形成

(参考)

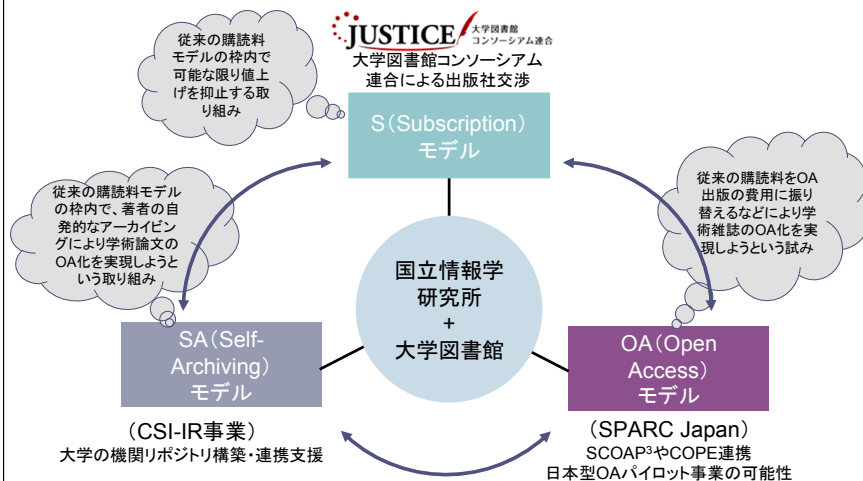
タイトなコンソーシアムの事例: SHEDL

- ▶ スコットランドの19の大学によるタイトな電子ジャーナル購入コンソーシアム(super-consortial purchasing scheme)
- ▶ SCURL (Scottish Confederation of University and Research Libraries) 主導、JISC Collectionsが支援
- ▶ 19大学全体の価格(総価)について出版社と交渉
- ▶ 現在、ACS、Berg、CUP、Edinburgh University Press、OUP、Springer、Porticoの1,850タイトルの電子ジャーナルへのアクセスを確保
- ▶ 利点
 - ▶ 予算を机に積んだ交渉が可能→opt-in型コンソーシアムの限界突破
 - ▶ 契約と支払の一元化→効率化
- ▶ 課題
 - ▶ 公平と透明なコスト分担スキームの策定
 - ▶ 交渉対象が限定される

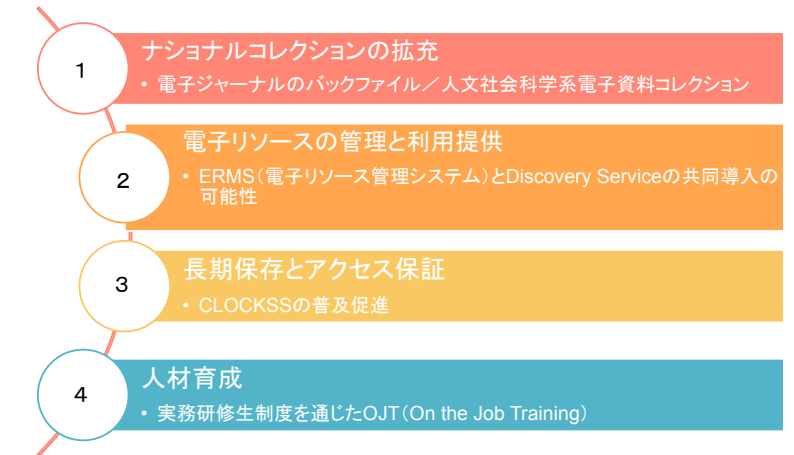
交渉の限界

1. 現在の学術雑誌システムの機能不全
 - ▶ 論文数の増加
 - ▶ 毎年3%の増加率
 - ▶ 競争が成立しない市場
 - ▶ 代替品が存在しない
 - ▶ モラルハザード
 - ▶ 費用を直接負担しない消費者の消費は過剰になる
2. コンソーシアム交渉の限界
 - ▶ 原因ではなく、状況に対処しているだけ(対症療法)
 - ▶ しかし、やめるわけにはいかない
3. 非購読料モデルの可能性追求
 - ▶ 著者支払モデル
 - ▶ OA基金モデル(COPEプロジェクト)
 - ▶ 購読料リダイレクトモデル(SCOAP³)

三位一体の取り組み



購読クラブ(buying club)を越えて 電子リソースの総合的ユーティリティへ



大学図書館とNIIによる電子コレクションの共同整備 (2006年～2010年)

- ▶ 電子ジャーナル・バックファイル
 - ▶ Springer(1847年～1996年)
 - ▶ 参加館数(契約館数):156
 - ▶ Oxford University Press(1849年～1997年)
 - ▶ 参加館数(契約館数)115
- ▶ 人文社会科学系電子資料コレクション
 - ▶ 19°&20° HCPP(英国議会下院文書)
 - ▶ 参加館数(契約館数):81
 - ▶ Making of the Modern World(ゴールドスミス・クレス文庫の整備)
 - ▶ 参加館数(契約館数):35
- ▶ アクセス方法
 - ▶ NII-REO/NII-REO HSS
 - ▶ 出版社／ベンダーのサーバ

ドイツの整備事業

- ▶ DFG(ドイツ学術振興会)による助成事業
- ▶ 2004年からバックファイルや人社系コレクションのナショナルライセンスを購入するための助成を開始
- ▶ 現在にまでに、約8,000万ユーロ(約100億円)を助成
- ▶ ドイツ全国の国立・私立大学の図書館、州立図書館、地域図書館という認証された施設を通じて研究者、学生に対してアクセスを提供

ドイツの主要なバックファイル・コレクション

- ▶ ACS Legacy Archives 1879-1995
- ▶ AIP Journals
- ▶ APS Digital Backfile Archive 1893-2003
- ▶ Annual Reviews Collection
- ▶ Blackwell Publishing Journal Backfiles 1879-2005
- ▶ Brill Journal Archive Online 1890-2009
- ▶ Cambridge Journals Digital Archives
- ▶ China Academic Journals (CAJ - Technik und Naturwissenschaften) 1994 - 2010
- ▶ China Academic Journals (CAJ)
- ▶ Elsevier Journal Backfiles on ScienceDirect 1907 - 2002
- ▶ IOP Journals
- ▶ Informa Healthcare Digital Archive 1896-2008
- ▶ Lippincott Williams & Wilkins 'LWW Legacy Archive' Jg.1 - 2004
- ▶ Nature Archives 1869 - 2009
- ▶ Oxford Journals Collection
- ▶ Periodicals Archive Online / PAO 1802-2000
- ▶ RSC Journals
- ▶ Sage Journals Online
- ▶ Science Classic Archiv 1880-1996
- ▶ Springer Online Journal Archives 1860-2002
- ▶ Taylor & Francis Online Archives 1799-2000
- ▶ Thieme Zeitschriftenarchive 1980-2007
- ▶ Wiley InterScience Backfile Collections 1832-2005

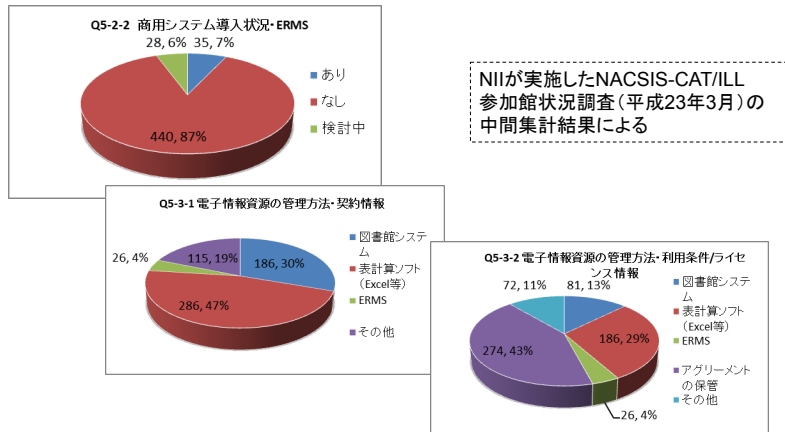
<http://www.nationalisierungen.de/angebote/>より

ドイツの主要な電子コレクション

- ▶ 17th - 18th Century Burney Collection Newspapers / BBCN (ZDB-1-BCN)
- ▶ 18th/19th/20th Century House of Commons Parliamentary Papers 1688-2004 (ZDB-1-HCP)
- ▶ 19th Century British Library Newspapers / BNCN (ZDB-1-BLN)
- ▶ China Ancient Books 中國基本古籍庫 (ZDB-1-CAD)
- ▶ Declassified Documents Reference System / DDRS (ZDB-1-DDR)
- ▶ Early American Imprints : Evans 1639-1800 (Series I) / EAI I (ZDB-1-EAI)
- ▶ Early American Imprints : Shaw/Shoemaker 1801-1819 (Series II) / EAI II (ZDB-1-EAP)
- ▶ Early English Books Online / EEBO (ZDB-1-EEB)
- ▶ Eighteenth Century Collections Online / ECCO (ZDB-1-ECC)
- ▶ Eighteenth Century Journals : A Portal to Newspapers and Periodicals, 1685-1815 / ECJ I & II (ZDB-1-ECJ)
- ▶ Making of Modern Law : Legal Treatises 1800-1926 / MOML 1 (ZDB-1-MML)
- ▶ Making of Modern Law : Primary Sources (1620-1926) / MOML 4 (ZDB-1-MMP) *Neu*
- ▶ Making of Modern Law : Trials 1600-1926 / MOML 3 (ZDB-1-MMH)
- ▶ Making of Modern Law : U.S. Supreme Court Records and Briefs, 1832-1978 / MOML 2 (ZDB-1-MMS)
- ▶ Making of the Modern World: economics, politics and industry (ZDB-1-MME)
- ▶ The Times Digital Archive 1785 - 1900 / TDA (ZDB-1-TDA)
- ▶ U.S. Congressional Serial Set, 1817-1980 (ZDB-1-USC)

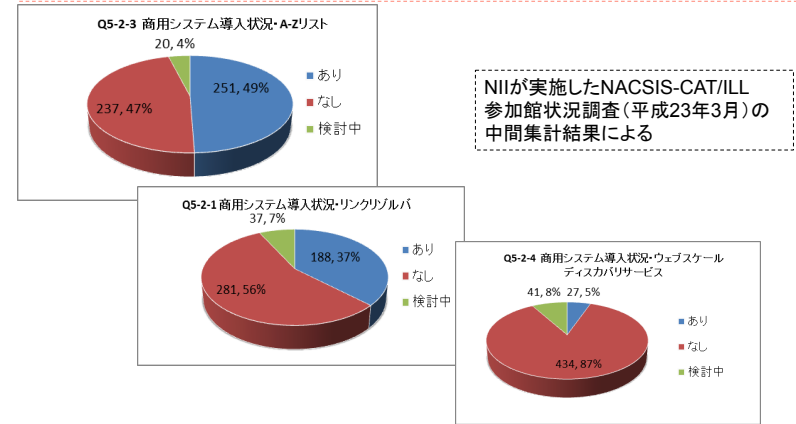
<http://www.nationalisierungen.de/angebote/>より

電子リソースの管理



→ ERMSの共同導入の可能性について検討

電子リソースの利用提供



→ Discovery Service等の共同導入の可能性について検討

電子リソースの保存

- ▶ 「所蔵」から「アクセス」へ
 - ▶ 図書館に「もの」が残らない
- ▶ 図書館の新たなミッション
 - ▶ 電子ジャーナルの長期的な保存とアクセス保証
- ▶ CLOCKSSへの参画
 - ▶ スタンフォード大学を中心とした国際的な分散型電子ジャーナル保存プロジェクト
 - ▶ 世界中に12のアーカイブノードを構築予定
 - ▶ 日本では、NIIが2010(平成22)年3月にノードの運用を開始
 - ▶ 2010(平成22)年9月に、JANUL、PULCとCLOCKSSとの間で合意成立
 - ▶ 国内の大学図書館が順次参加

CLOCKSSの概念図

